

調査研究の目的

これまでの専門高校における課題研究では、主として、活動計画 ⇒ 実践 ⇒ まとめ ⇒ 発表の順で行われているのが現状であった。特に発表においては、時間の制約もあり、成果に主眼がおかれ、その先のプロセスにつながりにくい状況がみられた。

そこで本研究では、生徒が主体となった探究の学びを促進するために、成果発表から1歩先へ進むためのプロセスを考える。発表時における失敗や改善点が見えるような工夫、また発表後にワークシート等（ICTの活用）を用いて、自分の考えを共有する時間（グループワーク）を新たに設け、農業・工業・商業・家庭・福祉における様々な視点からアイデアの交換を行うなかで学びのスパイラルの促進を図りたいと考え、本研究の目的とした。

研究の方向性

発表者・聞き手双方向による情報共有のための【3つの仕掛け】を設定

本研究での成果発表の方向性



- ① 失敗や改善点が見えるような工夫
⇒ 苦労した場面等を盛り込んだ発表等
- ② 発表後に自分の考えをまとめ情報の共有をするための工夫
⇒ ブレイクアウトルーム、Google Jamboard の活用等
- ③ 様々な視点を得る工夫
⇒ 学科が重ならないようグループ分けし、様々な視点からの意見・アイデアの交換

産業教育 MIRAI フェアでの検証

オンラインによる成果発表後、ICT を活用（Google Jamboard を使用）して疑問に思ったことや感想を入力。その後グループワーク（ブレイクアウトルームを活用）では、各学科の枠を超えて（教科横断型で）意見交換することで、新たな発見や考えが共有できるよう（グループ構成等も吟味）に配慮して実施。

指導者からのアンケート結果より

発表前、発表当日、発表後での生徒の視野の広がりの変化においては、指導者からの評価や「他校の発表、ふりかえりから他校の視点による気づきや研究の発展性を考えることに繋げる様子が見られた」という感想からも時間とともに高まっていることがわかる。

アンケート結果より（指導者からの視点）

2 生徒の視野の広がり（他学科の見方・考え方を取入れる）の変化



まとめ

3つの仕掛けを意識した成果発表から発表者と聞き手、両者の研究プロセスの理解が深まり、様々な視点から質疑・応答がされ、情報の交換が活発になることで、新たなアイデア・発見が生まれ、研究間の連携等に繋がった。

課題研究の成果発表の場は次のステージへ進む（学びのスパイラル促進の）ためのステップであり、主体的・対話的で深い学びにつながる成果発表について、今後も研究を進めていく。

本研究における成果

3つの仕掛けを意識した成果発表

